

## 平成25年度第2回経営工学教育FD/ICT活用研究委員会議事概要

I. 日 時：平成26年1月16日（木）18：00～20：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：渡邊委員長、井上委員、玉木委員、後藤委員、中島委員、小池委員  
（事務局）井端事務局長、森下主幹、野本

### IV. 議事内容

#### 1. 学士力の考察及び教育改善モデルへの意見について

アンケート結果を踏まえ、意見交換を行い、教育改善モデルの見直しを行い、以下のような検討がなされた。

- 学士力の考察では、経営ではなく経営工学として再度見直しすることで、経営上の新しい価値の部分で、「活動プロセスの改善や新しい価値」に変更した。総合的な見方、総合的なアプローチの記述は、それぞれ「工学的な見方」、「社会科学的なアプローチ」に変更し、マネジメント技術を複合的に活用して問題に対応できるは、「マネジメントとエンジニアリングの融合による事業価値の創造に対応できる」に変更した。
- 到達目標1では、解説部分の活動内容に「調達」を追加した。
- 到達目標3では、継続的改善でPDCAを回し続けることから、改善の後ろに「PDCAサイクル」を追加することにした。
- 到達目標4では、「経営上の」を削除し、解説部分では「社会や他組織と連携した」経営システムの価値創造とした。
- 経営工学の役割についてイメージ図を学士力の考察の最後に追加することを検討した。経営工学の役割として、マネジメントとエンジニアリングの融合による事業価値の創造を基本として、「活動プロセスの改善」、「新しい価値の創造」のイノベーションに向けてPDCAサイクルで向上させることから、グローバル化、社会環境、自然環境、人類の福祉などへの広がりイメージすることを図として表現することにした。

#### 2. 今後の研究の進め方について

来年度以降の委員会の進め方について意見交換をし、各委員より以下のような提案や意見が出された。

- 経営工学教育のアクティブ・ラーニングについて話題をつくり、知見を提供する。
- アクティブ・ラーニングを実現するためモデルを具体的教育現場でいかしていくこと。
- 到達目標1, 2部分を考慮した参考となる事例紹介すること。
- 先生方の意識改革とガバナンスに理解を促進する。学生は卒業するだけでは不十分であり、学生の間で失敗を経験させることも必要。あわせて、企業の入社面接で学習内容のヒアリングに変わる必要がある。
- 経営工学のサイバーFD登録教員は100名程度のため、例えば経営学と経営工学合同で議論してはどうか。
- 対話集会の開催時期については11月の学園祭の時期が考えられる。

### V. 今後のスケジュール

- 次回の委員会は4月17日（木）18時に開催する予定とした。
- 次年度の取り組みとして、例えば事例発表から対話集会で、主体的な学びの手がかりを得てもらったことのアクションプランを検討することとしている。